



2015年5月11日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社
代 表 者 代表取締役社長 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東 証 (第 一 部)
決 算 期 3月
問 合 せ 先 広報部長 臼井 政明
Tel : (0 3) 3 2 4 4 - 3 2 0 1

アステラス製薬 2015年3月期 決算説明会資料について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、代表取締役社長：畑中 好彦）は、2015年5月11日（月）15時00分より、証券アナリスト・機関投資家・報道機関の皆様向けに2015年3月期決算説明会を開催します。

同説明会の資料は別紙の通りですが、2015年3月期業績及び2016年3月期業績予想並びに開発中新薬の進捗状況等についてまとめています。

以 上

2014年度決算概況

2015年5月11日
アステラス製薬株式会社
代表取締役社長
畑中 好彦

注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2014年度決算概況(コアベース)

(億円)

	2013年度	2014年度	増減率	2014年度 通期予想#	達成率
売上高	11,399	12,473	+9.4%	12,100	103.1%
売上原価	3,306	3,332	+0.8%		
売上高比率	29.0%	26.7%			
販売費及び 一般管理費	3,970	4,525	+14.0%		
売上高比率	34.8%	36.3%			
研究開発費	1,915	2,066	+7.9%	2,000	103.3%
売上高比率	16.8%	16.6%		16.5%	
無形資産償却費	360	387	+7.4%		
持分法による損益	15	2	-85.1%		
コア営業利益	1,863	2,165	+16.2%	2,100	103.1%
コア当期純利益	1,328	1,532	+15.4%	1,540	99.5%

償却費 [有形+無形]
 ・2014年度：655
 ・2013年度：643

2014年10月 2014年度第2四半期決算発表時の修正公表

● 為替の状況

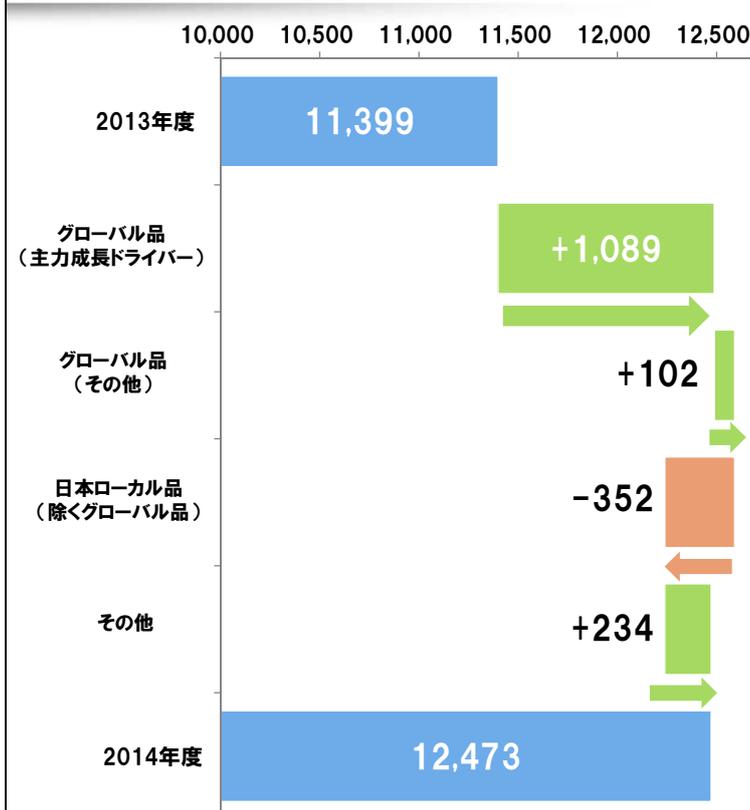
【期中平均レート】	2013年度	2014年度	変動	2014年度想定
ドル	100円	110円	10円安	104円
ユーロ	134円	139円	4円安	137円

【期首-期末の変動】	2013年度	2014年度
ドル	9円安	17円安
ユーロ	21円安	11円高

為替の影響
 ・売上高： +477
 ・コア営業利益： +180

2

2014年度業績： 売上高の変動要因(前期比較)



(億円)

売上高： +1,074億円

為替の影響： +477億円

・ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベットミガ +264 / XTANDI/イクスタンジ +826

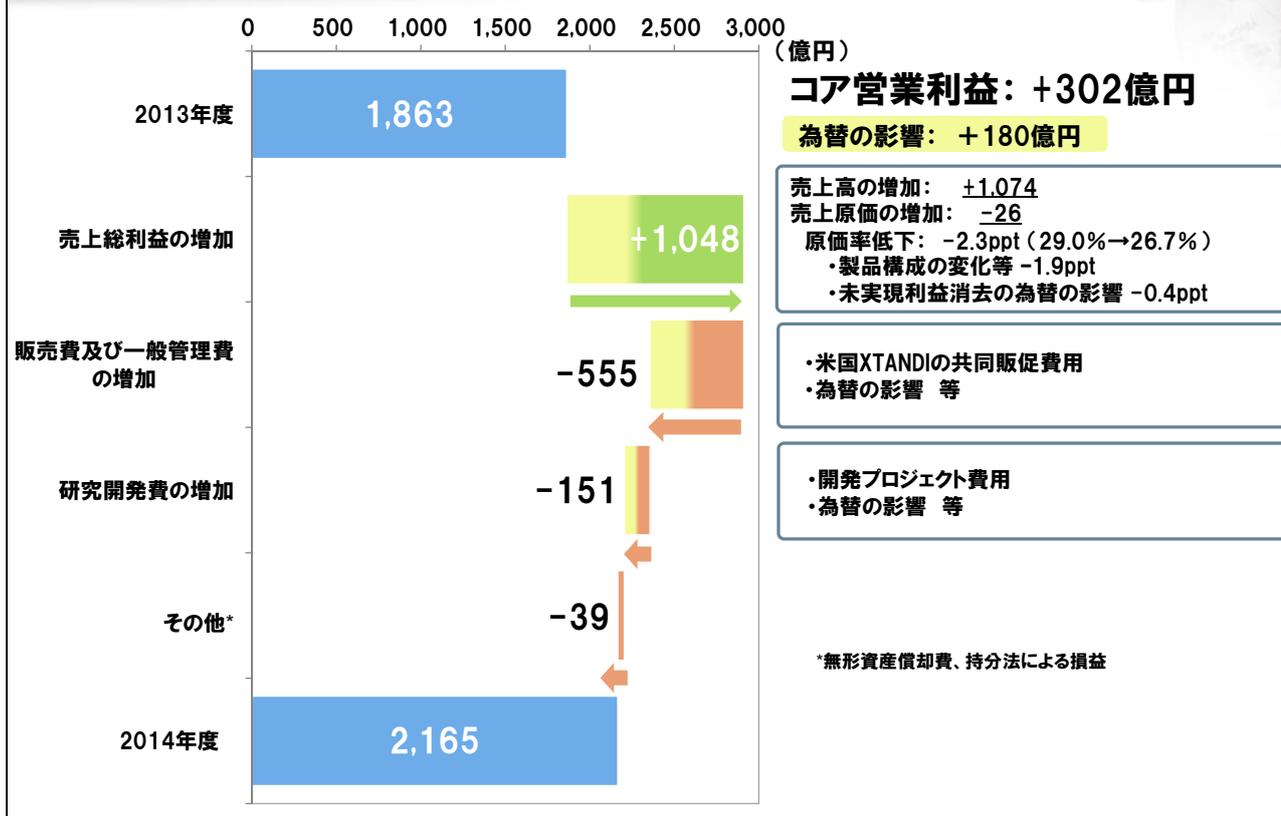
・プログラフ +137/ ハルナール -35 / ファンガード/マイカミン +27/ プロトピック -33/ エリガード +6

・新製品+成長品 -2/ ミカルディス-18
 リピトール -155 / ガスター -77 / マイスリー -88 / セロクエル -71

・スキャン +45 / タルセバ +41 / 欧州その他製品群ほか +148

3

2014年度業績： コア営業利益の変動要因（前期比較）



4

2014年度決算概況(フルベース)

(億円)

	2013年度	2014年度	増減率
売上高	11,399	12,473	+9.4%
売上原価	3,306	3,332	+0.8%
売上高比率	29.0%	26.7%	
販売費及び一般管理費	3,970	4,525	+14.0%
売上高比率	34.8%	36.3%	
研究開発費	1,915	2,066	+7.9%
売上高比率	16.8%	16.6%	
無形資産償却費	360	387	+7.4%
持分法による損益	15	2	-85.1%
その他の収益	116	125	+8.0%
その他の費用	810	433	-46.5%
営業利益	1,168	1,857	+59.0%
税引前利益	1,220	1,897	+55.5%
当期純利益	909	1,359	+49.5%

その他の収益:125
 ・有形固定資産売却益:14

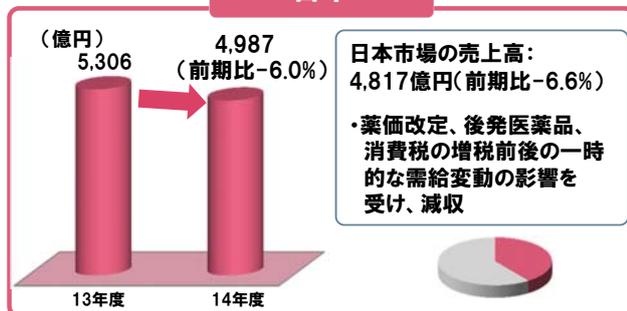
その他の費用:433
 ・リストラチャリング費用:115
 うち、早期退職優遇制度の割退職金:99 (2Qに計上)
 ・減損損失:103
 ・訴訟関係費用:162

地域別売上高(現地通貨ベース)

*売上元会社の所在地に基づき集計

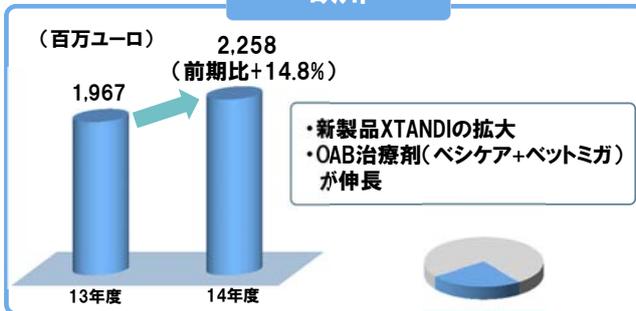
日本は減収、米州、欧州、アジア・オセアニアは引き続き成長

日本

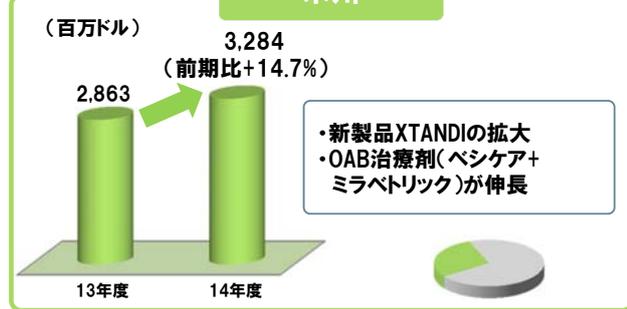


欧州

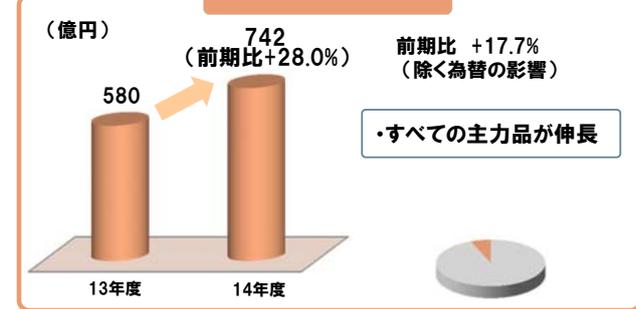
*中東・アフリカを含む



米州



アジア・オセアニア

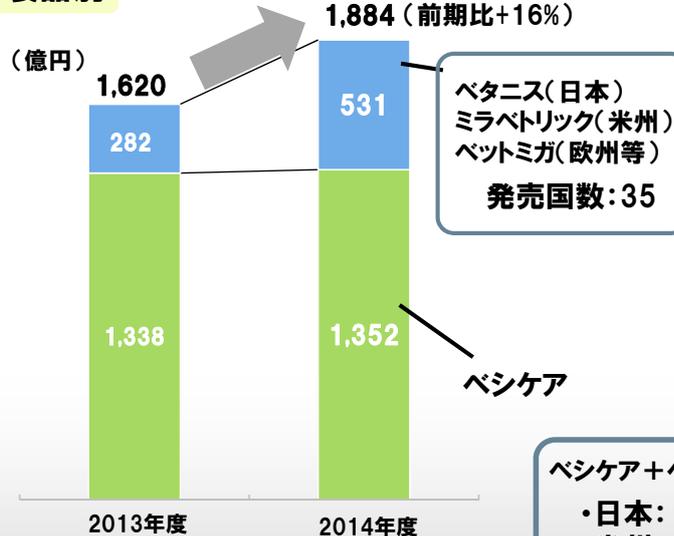


泌尿器OABフランチャイズ

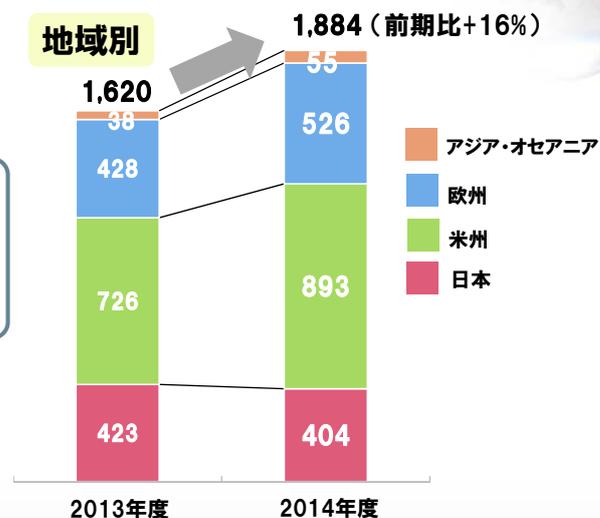
OAB(ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベツミガ)フランチャイズは引き続き成長

ベシケア、ベタニス/ミラベトリック/ベツミガの売上合計

製品別



地域別



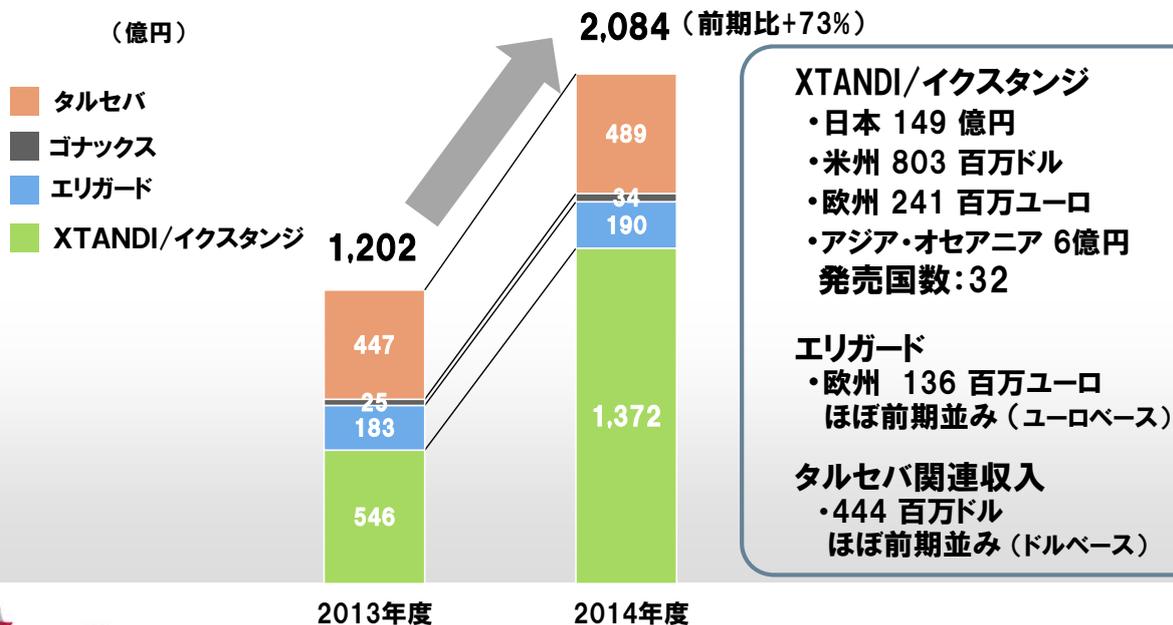
ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベツミガの成長率 [前期比]

- ・日本: -5%
- ・米州: +12% (ドルベース)
- ・欧州: +19% (ユーロベース)
- ・アジア・オセアニア: +33% (除く為替の影響)

がん領域フランチャイズ

XTANDI/イクスタンジのけん引により、がんフランチャイズは大きく拡大

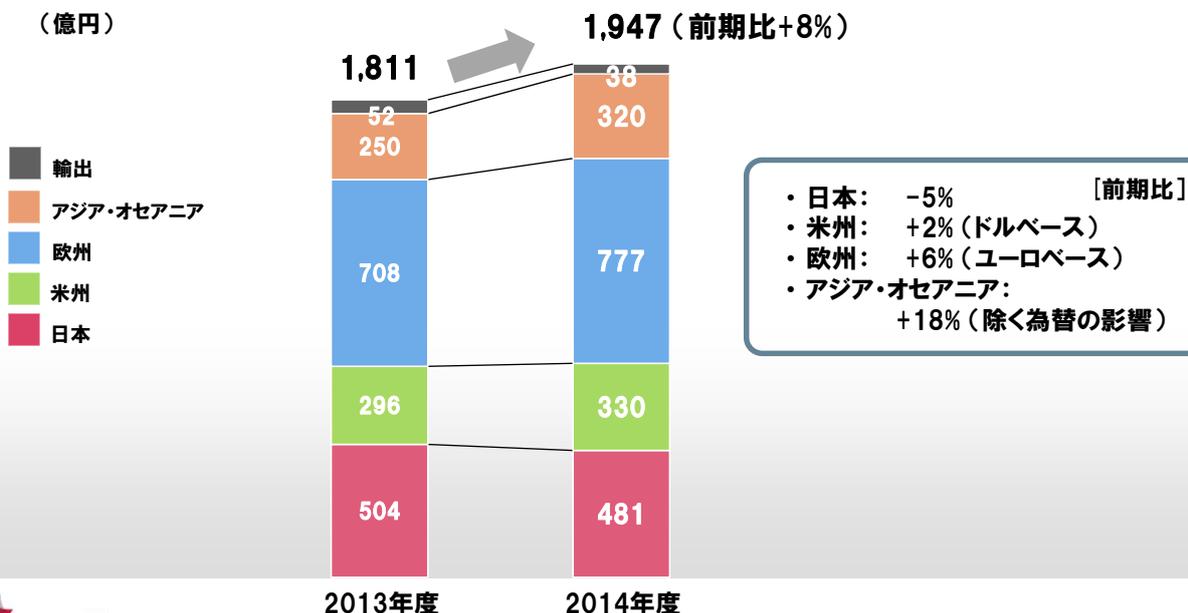
XTANDI/イクスタンジ、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計



移植フランチャイズ

グローバル売上を維持

プログラフ、アドバグラフ/グラセプター/アスタグラフXLの売上合計

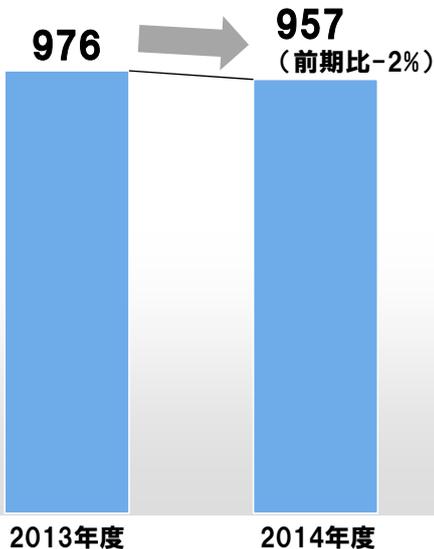


日本 主要製品群(グローバル製品除く)

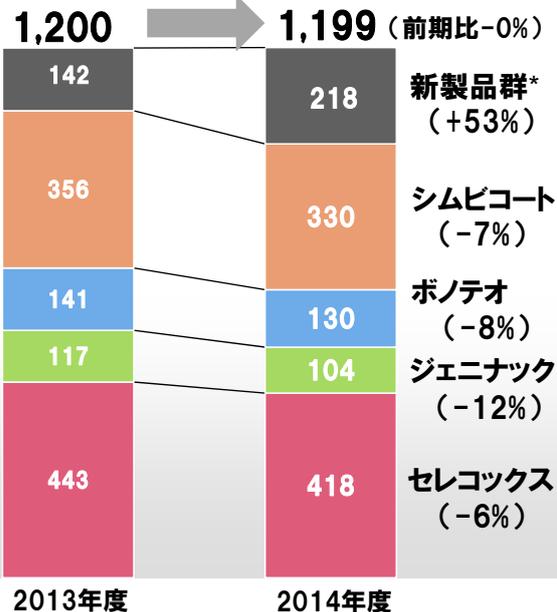
消費税の増税前後の一時的な需給変動による減少を新製品の成長によりカバー

ミカルディス [ファミリー]

(億円)



新製品群・成長品群



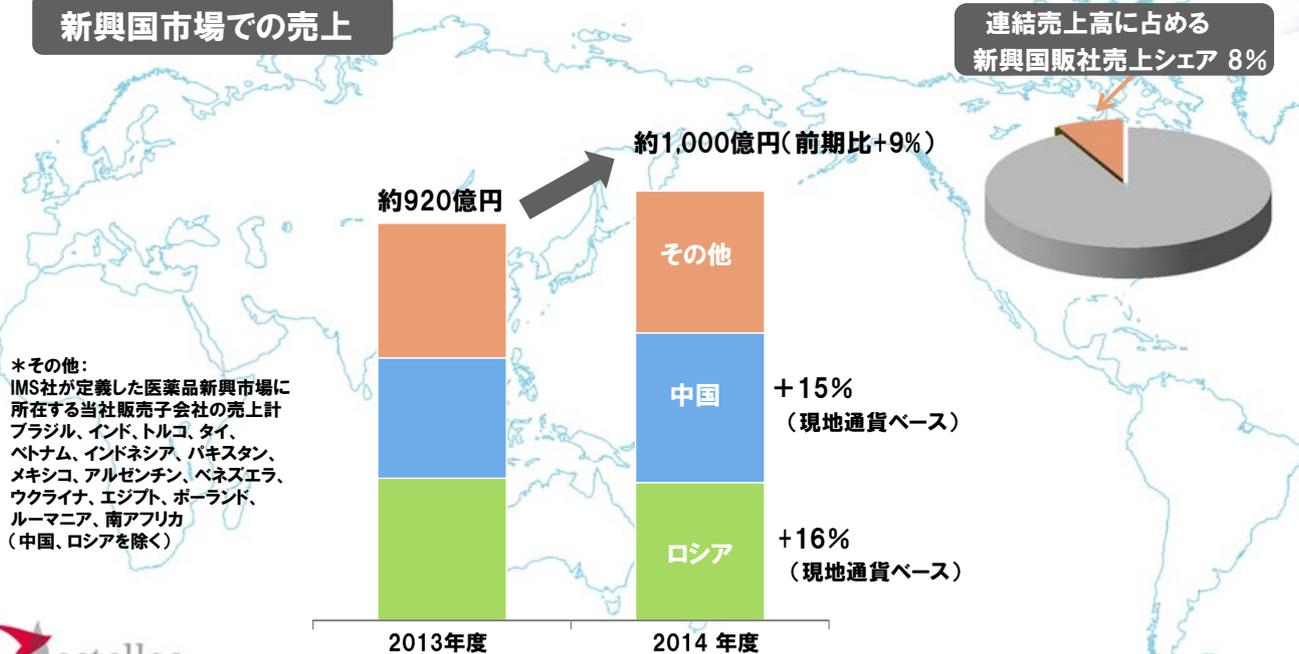
*新製品群: 2012年4月以降に発売した主な製品の合計売上 (アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイド、スーグラ)

新興国ビジネスの成長

中国・ロシアで二桁成長が継続

新興国市場での売上

連結売上高に占める
新興国販売売上シェア 8%



*その他:
IMS社が定義した医薬品新興市場に所在する当社販売子会社の売上計
ブラジル、インド、トルコ、タイ、
ベトナム、インドネシア、パキスタン、
メキシコ、アルゼンチン、ペレスエラ、
ウクライナ、エジプト、ポーランド、
ルーマニア、南アフリカ
(中国、ロシアを除く)

2015年度業績予想(コアベース)

(億円)

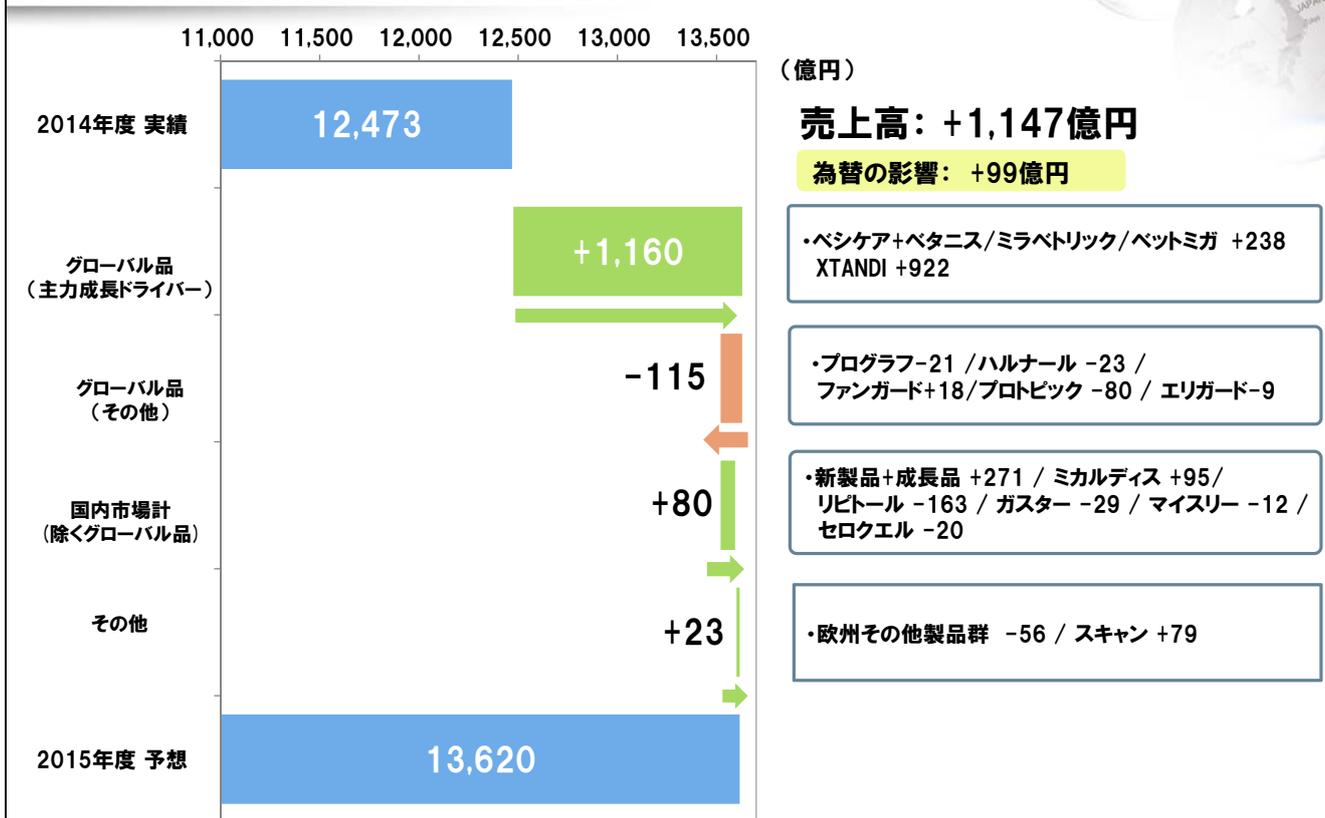
	2014年度	2015年度 予想	増減率
売上高	12,473	13,620	+9.2%
研究開発費 売上高比率	2,066 16.6%	2,290 16.8%	+10.8%
コア営業利益	2,165	2,380	+9.9%
コア当期純利益	1,532	1,700	+10.9%
基本的1株当たり コア当期純利益(円)	69.37	77.51	+11.7%

● 為替レート

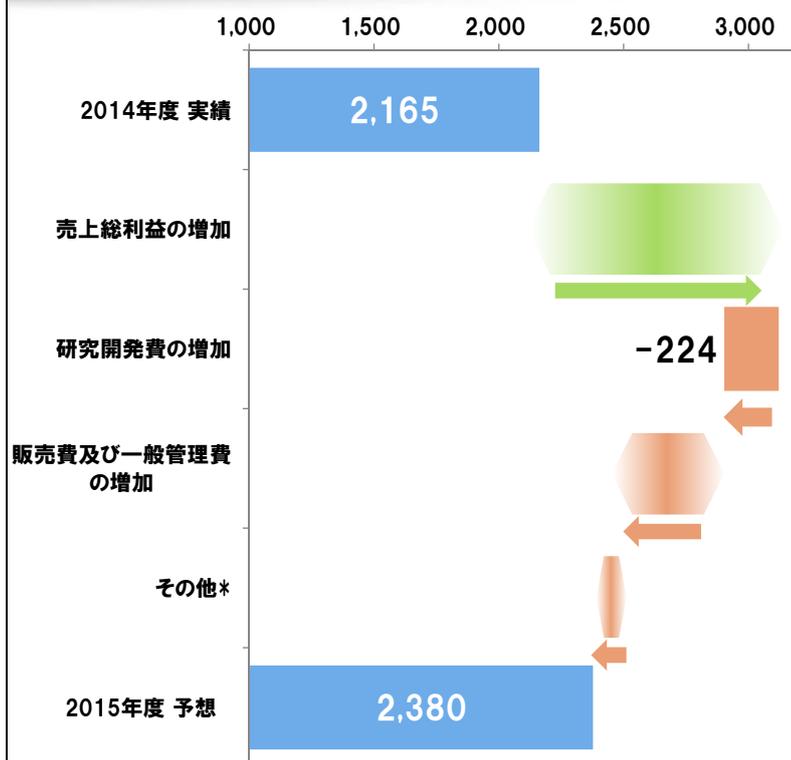
【期中平均レート】	2014年度	2015年度 予想	変動
ドル	110円	120円	10円安
ユーロ	139円	125円	14円高



2015年度業績予想(コアベース): 売上高の変動要因(前期比較)



2015年度業績予想(コアベース): 営業利益の変動要因(前期比較)



(億円)

営業利益: +215億円

為替の影響: +19億円

売上高の増加
原価率低下
・製品構成の変化

対売上比率+0.2ppt
[マイナス影響]
・開発プロジェクト費用

[マイナス影響]
・XTANDI共同販促費用

*無形資産償却費、持分法による損益

14

2015年度業績予想(フルベース)

(億円)

	2014年度	2015年度 予想	増減率
売上高	12,473	13,620	+9.2%
研究開発費 売上高比率	2,066 16.6%	2,290 16.8%	+10.8%
営業利益	1,857	2,380	+28.2%
税引前利益	1,897	2,390	+26.0%
当期純利益	1,359	1,700	+25.1%
基本的1株当たり 当期純利益(円)	61.50	77.51	+26.0%

● 為替レート

【期中平均レート】	2014年度	2015年度 予想	変動
ドル	110円	120円	10円安
ユーロ	139円	125円	14円高

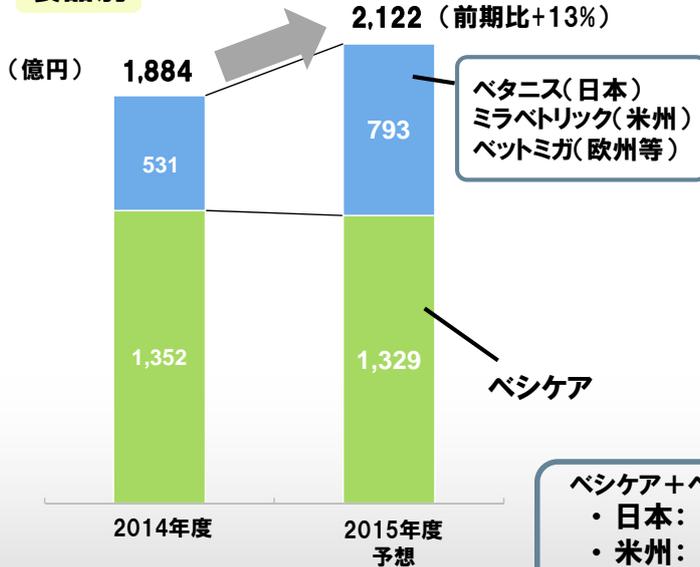
15

2015年度予想 泌尿器OABフランチイズ

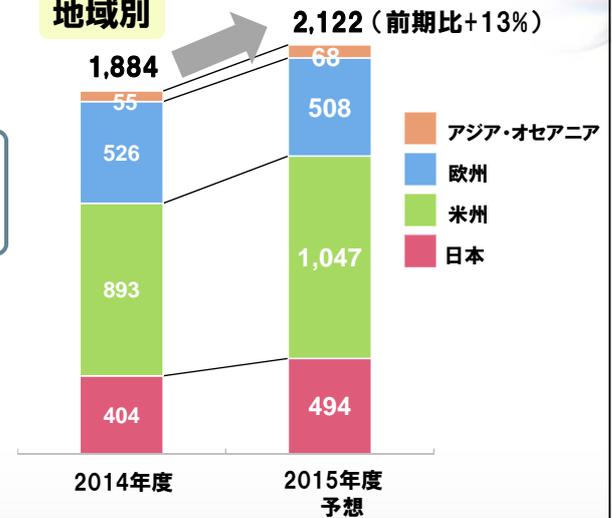
ベシケアとベタニス/ミラベトリック/ベツミガの両剤で、OABフランチイズを更に強化

ベシケア、ベタニス/ミラベトリック/ベツミガの売上合計

製品別



地域別



- ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベツミガの成長率
- ・ 日本: +22% [前期比]
 - ・ 米州: +7% (ドルベース)
 - ・ 欧州: +7% (ユーロベース)
 - ・ アジア・オセアニア: +18% (除く為替の影響)

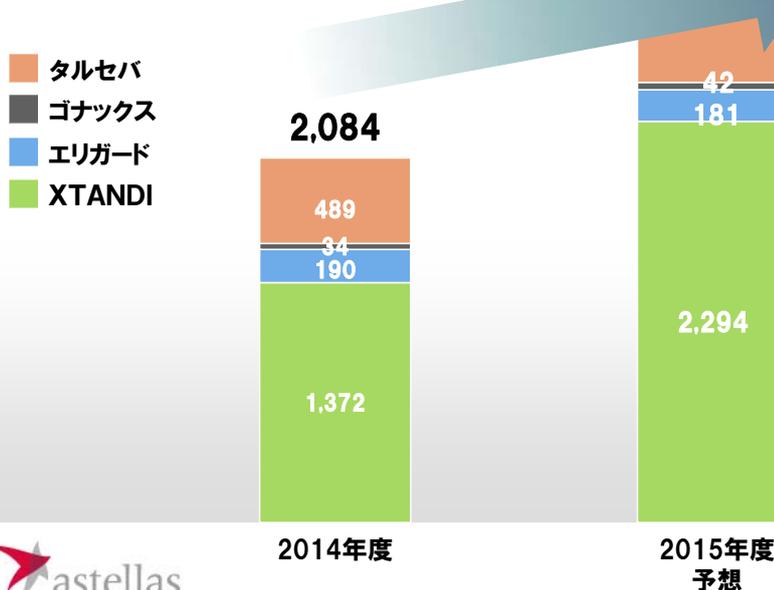
OAB: 過活動膀胱

2015年度予想 がん領域フランチイズ

XTANDIがグローバルに貢献し、がんフランチイズは更に拡大

XTANDI、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計

(億円)



XTANDI (前期比+67%)

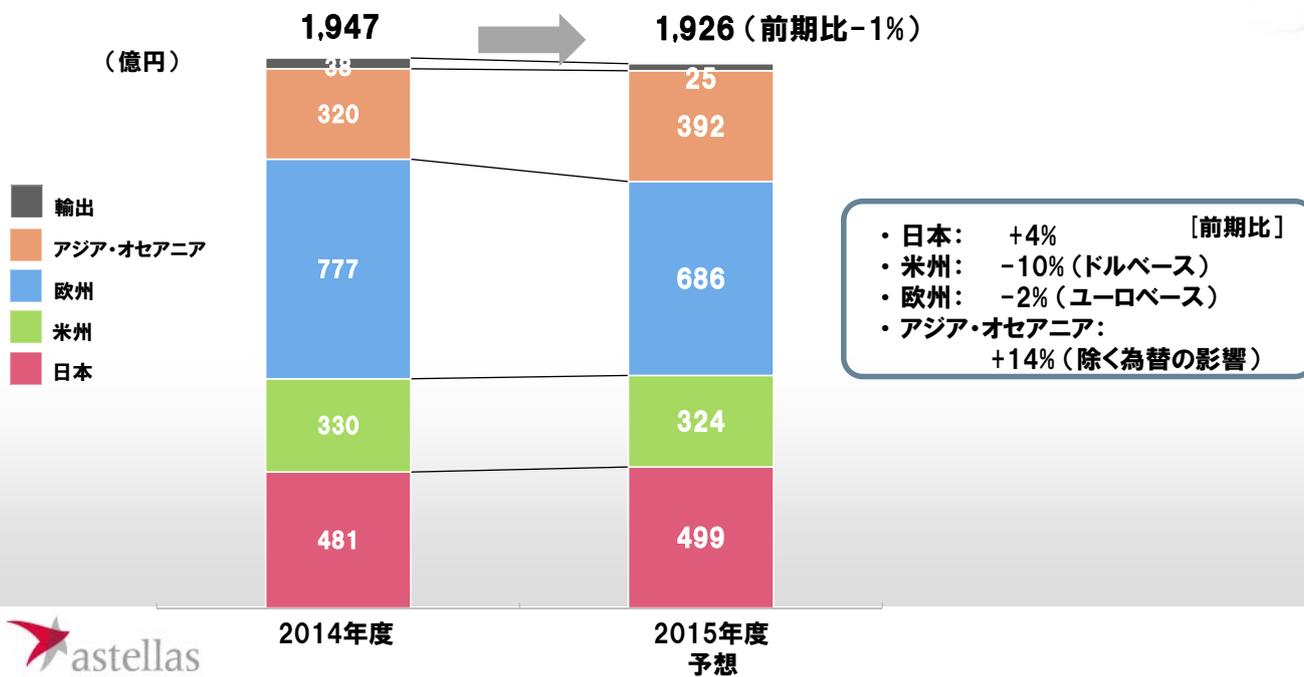
- ・ 販売地域の拡大
- ・ 化学療法前の転移性去勢抵抗性前立腺がん適応*の市場浸透

*米国での適応症は転移性去勢抵抗性前立腺がん。適応症は各地域で異なる。

2015年度予想 移植フランチイズ

アジア・オセアニアが引き続き成長し、グローバル売上进行維持

プログラフ、アドバグラフ/グラセプター/アスタグラフXLの売上合計

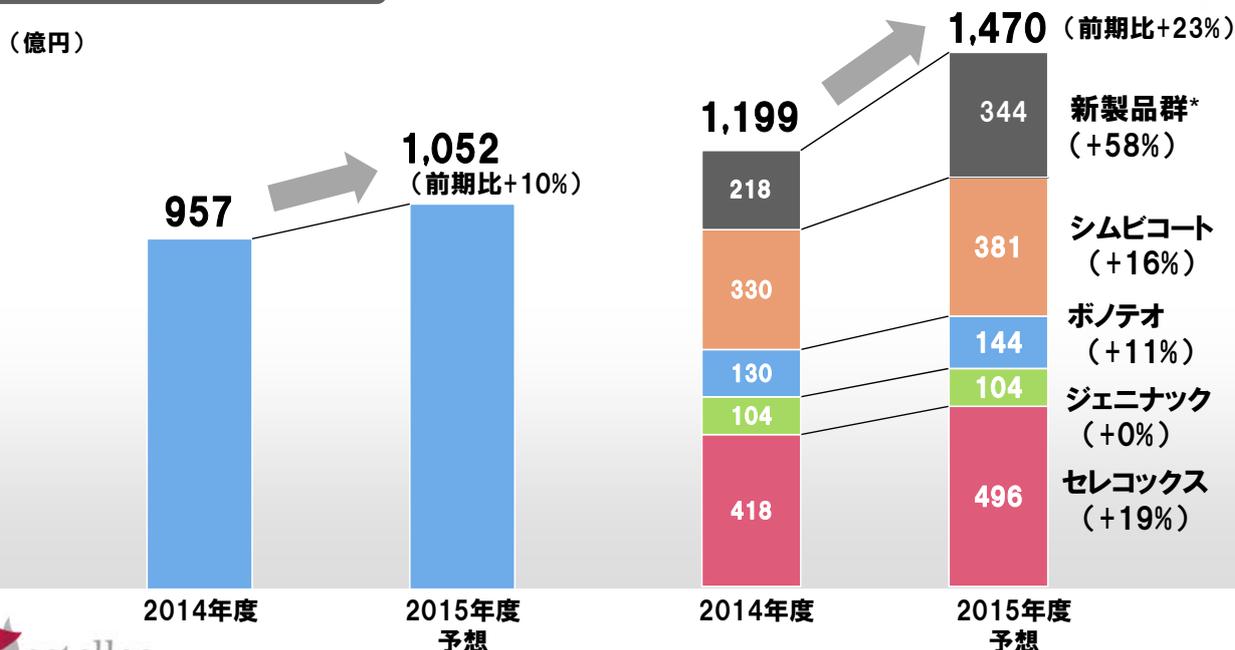


2015年度予想 日本 主要製品群(グローバル製品除く)

主力成長品と新製品の売上は着実に拡大

ミカルディス [ファミリー]

新製品群・成長品群



新薬パイプライン



成長の基盤となるパイプライン

第Ⅰ相試験

- ミラベグロン (小児)
- ASP5633
- ASP2205
- ASP6282
- ASKP1240 (日)
- ASP5094
- AGS-16C3F
- ASG-22ME
- ASP1707 (前立腺がん、欧)
- ASG-15ME
- ASP5878
- ASP8273(米)
- AGS67E
- ASP4132
- ASP2215 (非小細胞肺がん、日米並)
- blinatumomab
- ASP3662 (アルツハイマー病)
- ASP7962
- ASP4345
- YM311 (日)
- CK-2127107
- ASP6858

第Ⅱ相試験

- ASP0113 (VCL-CB01) (臓器移植時CMV感染抑制、欧米)
- ASKP1240 (移植、米)
- ASP7373 (インフルエンザH5N1、日)
- ASP015K (関節リウマチ、欧米)
- エンザルタミド (乳がん、肝細胞がん、欧米)
- ASP8273 (非小細胞肺がん、日並)
- ASP8477 (神経障害性疼痛、欧)
- ASP3662(PDPN、米)
- ロキサデュスタット (日)
- YM311 (FG-2216) (腎性貧血、欧)
- ASP1707 (子宮内膜症、欧日)
- リナクロチド (慢性便秘、日)
- ビキサロマー(顆粒製剤、日)
- ASP8232 (糖尿病性腎症、欧、糖尿病黄斑浮腫、米)
- イブラグリフロジン (1型糖尿病、日)

第Ⅲ相試験

- ソリフェナシン (小児、欧米)
- ソリフェナシン/ミラベグロン (欧米並)
- ASP0113 (VCL-CB01) (HCT時CMV感染抑制、欧米日)
- フィダキソマイシン (感染性腸炎：日、小児：欧)
- isavuconazonium sulfate (カンジダ、米)
- ASP015K (関節リウマチ、日)
- エンザルタミド (MO CRPC、MO BCR：欧米並)
- デガレリクス (3か月製剤、日)
- ASP2215 (急性骨髄性白血病、欧米日並)
- クエチアピン (双極性障害、日)
- ロキサデュスタット (慢性腎疾患に伴う貧血、欧)
- ペラプロスト ナトリウム (慢性腎不全、日並)
- romosozumab (骨粗しょう症、日)
- リナクロチド (便秘型IBS、日)

申請

- ASP7374 (季節性インフルエンザ、日)
- セルトリズマブ ペゴル (抗リウマチ薬未治療 関節リウマチ、日)
- カブサイジン (糖尿病性神経障害に伴う疼痛、欧)
- ラモセトロン (IBS女性、日)
- ビキサロマー (保存期慢性腎臓病 高リン血症、日)
- エボロクマブ (高コレステロール血症、日)

疾患領域：

- 泌尿器疾患
- 免疫疾患(移植を含む)及び感染症
- がん
- 精神・神経疾患
- 糖尿病合併症及び腎疾患、その他
- 新規分子成分

プロジェクトの記載は概要を示したものです。詳細はパイプラインリストをご参照ください。

開発の着実な進展

2月から5月までの変化のまとめ



ASP6282
低活動膀胱

ASP2215
非小細胞肺癌
日米並

ASP4132
がん

blinatumomab
急性リンパ性白血病
日本

ASP4345
統合失調症に伴う
認知機能障害

エンザルタミド
肝細胞がん
欧米

ASP3662
糖尿病性神経障害に伴う
疼痛
米国

イプラグリフロジン
1型糖尿病
日本

ASP2215
急性骨髄性白血病
欧米日並

ビキサロマー
保存期慢性腎臓病
患者における高リン血症
日本

エボロクマブ
高コレステロール血症
日本

isavuconazonium sulfate
侵襲性アスペルギルス症
及び侵襲性ムーコル症
米国

エルロチニブ
小児データの提出による
独占期間の延長
米国

中止/パイプラインリストから削除

P1段階: ASP3700、ASP9226、ASP3325、ASP7657

P2段階: AMG 337、ASP7991

P3段階: rilotumumab

申請段階: ナテグリニド

2015年2月からの変化 <承認、申請>

● 承認

製品名 一般名	効能・効果	地域	変化
CRESEMBA isavuconazonium sulfate	18歳以上の患者を対象とした 侵襲性アスペルギルス症及び 侵襲性ムーコル症の治療	米国	2015年3月に承認

● 小児データの提出による独占期間の延長

製品名 一般名	対象疾患	地域	変化
タルセバ エルロチニブ	小児上衣腫*	米国	提出した小児データがFDAの要請を満たしていると判断され、2019年5月までの独占期間の延長が認められた。

*効能追加ではないが、小児臨床試験実施要請書に対応するため、FDAに試験結果を提出した。

● 申請

開発コード 一般名	対象疾患	地域	変化
ASP1585 (AMG 223) ビキサロマー	保存期慢性腎臓病患者における 高リン血症	日本	2015年3月に申請(効能追加)
AMG 145 エボロクマブ	高コレステロール血症	日本	2015年3月に申請

2015年2月からの変化 <ステージアップ、新規P1>

● ステージアップ

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
ASP2215	急性骨髄性白血病	米国/欧州/ 日本/アジア	P3	P3試験を準備中 ASCOでP1/2試験データを 発表予定
	非小細胞肺癌	米国/ 日本/アジア	P1	P1b/2試験を準備中
MDV3100 エンザルタミド	肝細胞がん	米国/欧州	P2	P2入り
ASP3662	糖尿病性神経障害に伴う 疼痛	米国	P2	P2入り
ASP1941 イブラグリフロジン	1型糖尿病	日本	P2	P2入り
AMG 103 blinatumomab	急性リンパ性白血病	日本	P1	P1b/2試験を開始

● 新規P1

開発コード	対象疾患	ステージ	変化
ASP4345	統合失調症に伴う認知機能障害	P1	新規P1入り
ASP4132	がん	P1	新規P1入り
ASP6282	低活動膀胱	P1	新規P1入り

ASCO: 米国臨床腫瘍学会

24

2015年2月からの変化 <中止、パイプラインリストから削除>

● 中止

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	中止理由
ナテグリニド	2型糖尿病 DPP-4阻害剤との 併用療法	日本	申請	戦略的な理由により申請を取り下げ、 開発を中止した。
AMG 102 rilotumumab	胃がん	日本	P3	臨床試験の中止に伴い、開発を中止した。
ASP7991	二次性 副甲状腺機能亢進症	日本	P2	P2試験の結果にもとづき開発を中止した。

● P1段階での中止

開発コード	対象疾患
ASP3325	高リン血症
ASP3700	変形性関節症
ASP9226	神経因性疼痛
ASP7657	糖尿病性腎症

● パイプラインリストから削除

開発コード	対象疾患	地域	ステージ	備考
AMG 337	胃がん	日本	P2	アムジェン社との協議にもとづき、戦略的な 理由によりパイプラインリストから削除した。

25

抗がん剤パイプライン

最も開発の進んでいる地域のフェーズ

	プロジェクト	がん種	特徴	P1	P2	P3	申請
低分子	エルロチニブ (タルセバ)	小児上衣腫*1	HER1/EGFRチロシンキナーゼ阻害剤	米国	独占期間延長		
	エンザルタミド (XTANDI)	前立腺がん (非転移性去勢抵抗性、非転移性生化学的再発)、乳がん、肝細胞がん	アンドロゲン受容体阻害剤	非転移性・生化学的再発			
	デガレリクス (ゴナックス)	前立腺がん	日本初のGnRHアンタゴニスト	3M製剤: 日本			
	ASP2215	急性骨髄性白血病、非小細胞肺癌	FLT3/AXL阻害剤	急性骨髄性白血病			
	ASP8273	非小細胞肺癌	変異選択的非可逆EGFR阻害剤	非小細胞肺癌			
	ASP1707	前立腺がん*2	経口のGnRHアンタゴニスト				
	ASP5878	固形がん	FGFR阻害剤				
	ASP4132	進行がん					
抗体	AGS-16C3F	腎臓がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ENPP3)				
	ASG-22ME	固形がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ネクチン-4)				
	ASG-15ME	膀胱がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: SLITRK6)				
	AGS67E	悪性リンパ腫	ADC技術を活用した抗体 (標的: CD37)				
	AMG 103 blinatumomab	急性リンパ性白血病	抗CD19 BiTE抗体				

ASCO2015における新規データの発表予定
エンザルタミド(P2 TNBC)、ASP2215(P1/2)、ASP8273(米国P1)、AGS-16C3F(P1)

*1: 効能追加ではなく、小児臨床試験実施要請書への対応、*2: 子宮内腺症でP2

ADC: 抗体-薬物複合体 26

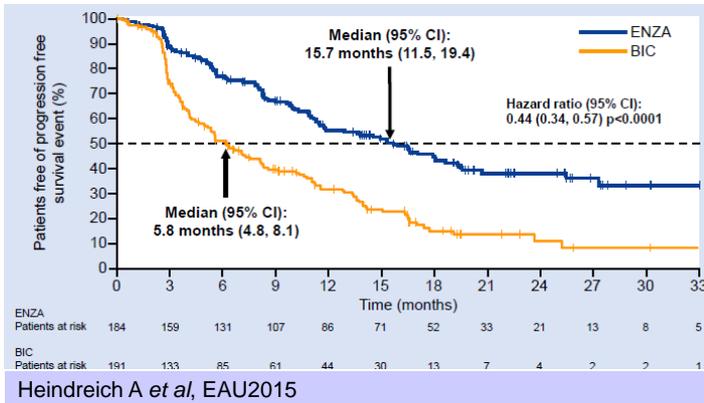
エンザルタミド: 開発の進展

*試験を実施している地域

	試験 地域*/フェーズ	対象	デザイン	P1	P2	P3	申請
前立腺がん	欧米亜 P3試験 [PROSPER試験]	MO CRPC 非転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,500)	患者組み入れ開始: 2013年11月			
	欧米亜 P3試験 [EMBARC試験]	MO BCR 非転移性生化学的再発前立腺がん	アンドロゲン除去療法、併用との比較試験 (n=1,860)	患者組み入れ開始: 2015年1月			
	欧米 P2試験 [TERRAIN試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	ピカルタミドとの比較試験 (n=375)	EAUでデータを発表			
	米国 P2試験 [STRIVE試験]	化学療法未治療 転移性または非転移性去勢抵抗性前立腺がん	ピカルタミドとの比較試験 (n=400)	結果サマリーが判明: 2015年4月			
	米国 P2試験	ネオアジュバント療法 前立腺切除術実施前	単剤またはリュープロレリン、デュタステリドとの併用 (n=50)	結果判明			
乳がん	欧米 P2試験	トリプルネガティブ アンドロゲン受容体陽性のトリプルネガティブ進行性再発乳がん	オープン試験 (n=118)	フルデータをASCOで発表予定			
	欧米 P2試験	ER/PgR陽性 エストロゲン受容体 (ER) 陽性またはプロゲステロン受容体 (PgR) 陽性でHER2正常の進行性乳がん	プラセボ対照、エキセメスタンとの併用 (n=240)	患者組み入れ完了: 2015年3月			
	欧米 P2試験	HER2陽性 アンドロゲン受容体陽性、HER2陽性でER陰性の進行性乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始: 2014年9月			
肝がん	欧米 P2試験	肝細胞がん	-	準備中			

エンザルタミド：TERRAIN試験とSTRIVE試験で 良好な結果が判明

EAUで発表されたTERRAIN試験における 無増悪生存期間



AUAで発表予定の STRIVE試験の結果

- ビカルタミド群と比較して統計学的に有意な無増悪生存期間の延長が認められた(ハザード比=0.24; 95%信頼区間、0.18-0.32; p<0.0001)。
- 無増悪期間の中央値は、エンザルタミド群で19.4か月、ビカルタミド群で5.7か月だった。
- 重篤な有害事象は、エンザルタミド投与群の29.4%、ビカルタミド投与群の28.3%でみられた。

デザイン	TERRAIN
対象	転移性去勢抵抗性前立腺がん
主要評価項目	無増悪生存期間 ・画像診断上の進行 ・骨関連事象 ・他の新たな抗腫瘍薬の開始 ・死亡
画像診断の結果	中央及び各施設での判定

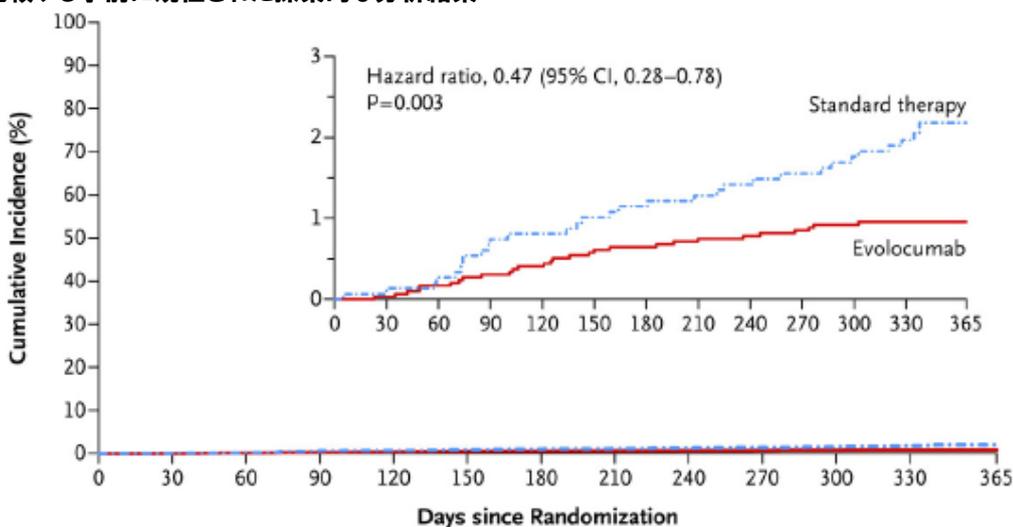
STRIVE
非転移性(35%)及び転移性(65%) 去勢抵抗性前立腺がん
無増悪生存期間 ・画像診断上の進行 ・PSA値の増悪 ・死亡
各施設での判定のみ

EAU: 欧州泌尿器科学会、AUA: 米国泌尿器科学会

エボロクマブ：OSLER-1試験及びOSLER-2試験から 得られた心血管イベントの探索的な分析結果

心血管イベントの累積発現率

オープンラベル延長試験において、エボロクマブと標準療法の併用と、標準療法単独の群を比較する事前に規程された探索的な分析結果



No. at Risk	0	30	60	90	120	150	180	210	240	270	300	330	365
Standard therapy	1489	1486	1481	1473	1467	1463	1458	1454	1447	1438	1428	1361	407
Evolocumab	2976	2970	2962	2949	2938	2930	2920	2910	2901	2885	2871	2778	843

Sabatine MS *et al*. N Engl J Med 2015.
DOI: 10.1056/NEJMoa1500858



ソリフェナシン/ミラベグロン: 開発の進展

BESIDE試験において良好な結果が判明
AUAにおいて発表予定

● BESIDE試験

目的	ソリフェナシンにミラベグロンを追加投与した治療法の評価
対象	ソリフェナシン単剤で十分にコントロールされていない尿失禁を伴う過活動膀胱患者 (n=2,174)
デザイン	プラセボ及び実薬を対照とした二重盲検試験、12週間投与、併用療法
投与群	3群 ・低用量ソリフェナシン(5 mg) ・高用量ソリフェナシン(10 mg) ・ソリフェナシン5 mgとミラベグロン50 mg(最初の4週は25 mg)の併用
主要評価項目	24時間あたりの平均尿失禁回数のベースラインからの変化量

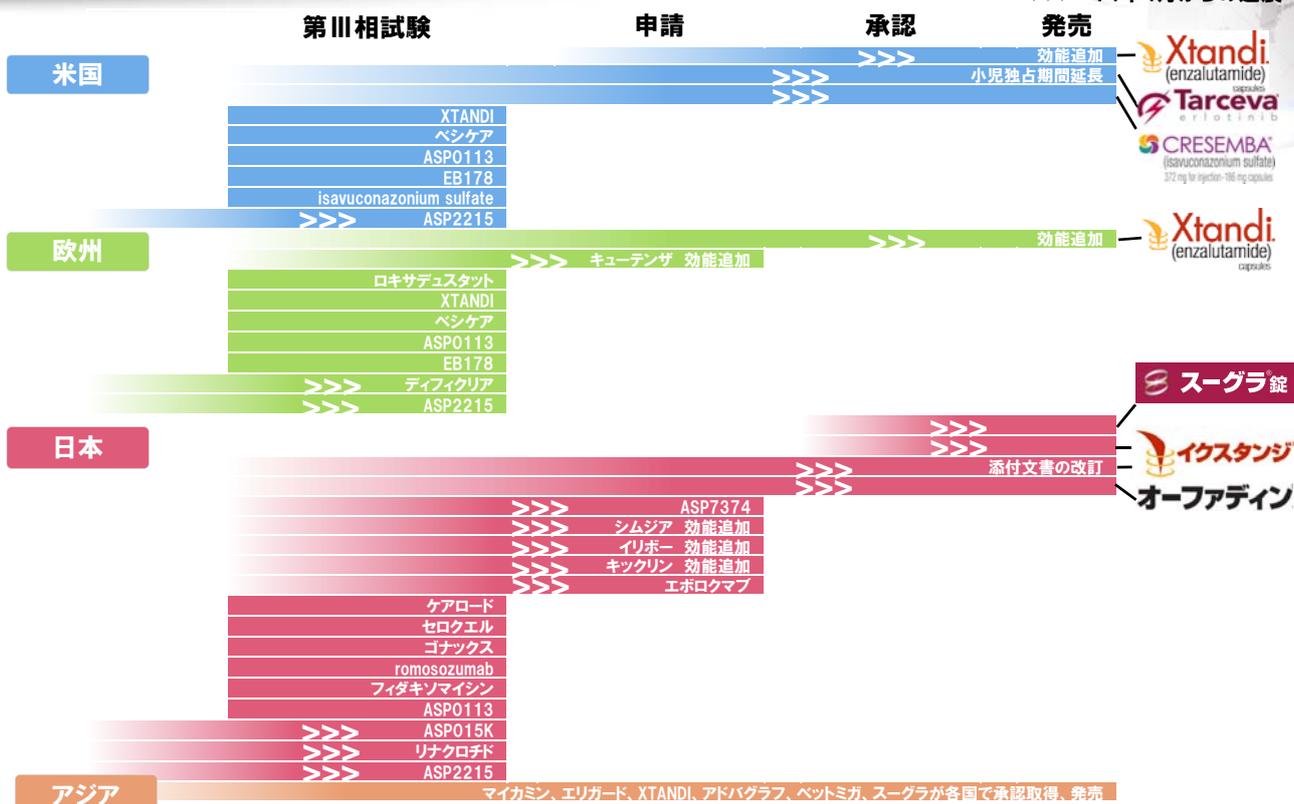
● 開発の進展

- SYNERGY試験(第III相二重盲検試験): 実施中
- SYNERGY 2試験(第III相長期投与試験): 実施中



2014年度 後期開発品の進展

>>>: 14年4月からの進展



持続的な成長に向けた取り組み

-Build Resilience for Sustainable Growth-



戦略課題と最近の取り組み

事業環境の変化にしなやかに対応し、持続的な成長を目指す

成長戦略

製品価値の
最大化

成長ドライバーの伸長

- OABフランチャイズの最大化(ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベツミガ拡大)
- がん領域の強化(XTANDI/イクスタンジ拡大、適応症の追加)
- 各国での新製品の発売

効率化戦略

イノベーションの
創出

新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

- 大阪大学との次世代の細胞医療に関する共同研究講座の設置
- MDアンダーソンがんセンターとの急性骨髄性白血病を対象としたモノクローナル抗体医薬の研究・開発に関するオプション契約
- ポテンザ社とのがん免疫に関する独占的共同研究開発契約

Operational
Excellence
の追求

各種規制の変化への対応

- 外部のウェブサイトを通じて、研究者へ臨床試験データを提供

組織・機能の見直し

- グローバルマーケティング戦略機能の強化(CEO直属のポジションを設置)
- メディカルアフェアーズ機能のレポートライン再編
- グローバルな事業開発機能の再編
- グローバルIT機能のレポートライン再編

新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦： 最近の取り組み

イノベーションの
創出

大阪大学との次世代の細胞医療に関わる基盤技術開発、実用化を目指す 共同研究講座の設置（2014年12月締結）

- 輸注・移植細胞のソース、細胞加工技術を、疾患に応じて最適化することで、輸注・移植細胞を高機能化させ、治療効果を高めるための技術を開発。さらに、移植細胞による免疫応答や体内動態、安全性を解析し、他家細胞移植治療の実用化のための研究開発を行う。



MDアンダーソンがんセンターとの急性骨髄性白血病を対象とした モノクローナル抗体医薬の研究・開発に関するオプション契約（2015年4月締結）

- MD Anderson Cancer Center主導の下、ヒト化モノクローナル抗体h8F4の急性骨髄性白血病に対する治療薬¹⁾としての創製を目指す。

¹⁾一部の急性骨髄性白血病患者さんのがん細胞に発現している「PR1/HLA-A2」と呼ばれるHLA抗原ペプチド複合体に、h8F4は特異的に結合し、抗がん作用を示す。



ポテンザ社とのがん免疫療法に関する独占的共同研究開発契約（2015年4月締結）

- ポテンザ社と免疫チェックポイント分子、共刺激因子、及び制御性T細胞などを標的とする新規の作用機序を持つプログラム群から構成されるポートフォリオの構築を目指す。



36

利益配分等に関する方針

- 成長を実現するための事業投資を最優先
- 中長期的な利益成長に基づき、配当は安定的かつ持続的に向上
- 自己株式取得は機動的に実施

	2013年度	2014年度	2015年度(予想)
基本的1株当たり コア当期純利益	59.11円	69.37円	77.51円
1株配当	27円	30円 (予定)	32円
親会社所有者帰属持分 当期純利益率(ROE)	7.4%	10.5%	—
親会社所有者帰属持分 配当率(DOE)	5.0%	5.1%	—
自己株式取得 (単元未満株式買取分を除く)	25百万株 300億円	38百万株 582億円	機動的に実施
自己株式消却	55百万株	25百万株	38百万株 (2015年5月29日に実施予定)

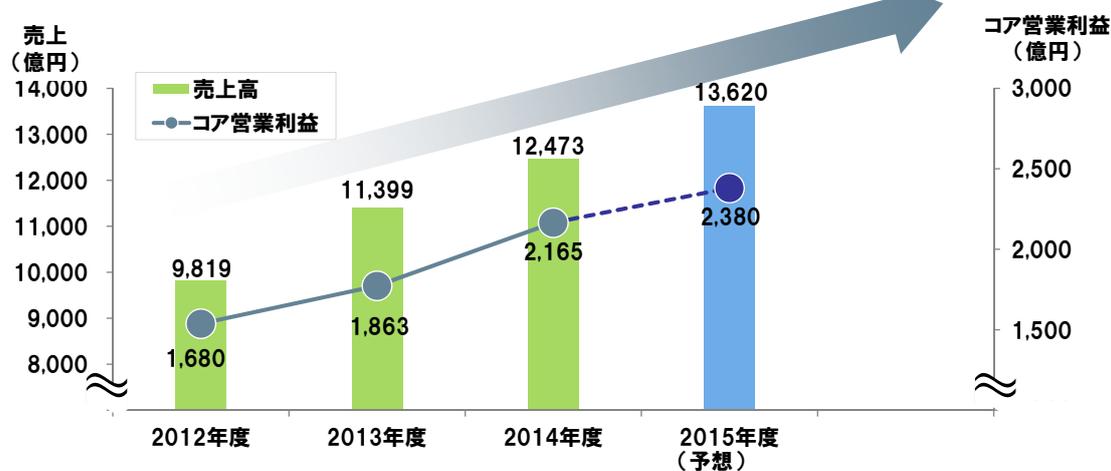


注1)2014年4月1日を効力発生日として普通株式1株を5株に分割する株式分割を考慮した数値
(2013年度の数値は便宜的に株式分割後ベースに引き直して記載)

37

持続的な成長の実現

事業環境の変化にしなやかに対応し、持続的な成長を目指す



- XTANDI/イクスタンジ、ベシケア+ベタニス/ミラベトリック/ベツミガがけん引し、ビジネスは順調に推移。
- 「製品価値の最大化」、「イノベーションの創出」、「Operational Excellenceの追求」に引き続き取り組む。

38

「経営計画2015-2017」の公表スケジュール(予定)

2015年5月26日(火)
プレスリリース

2015年5月27日(水) 13:30 - 15:00
説明会

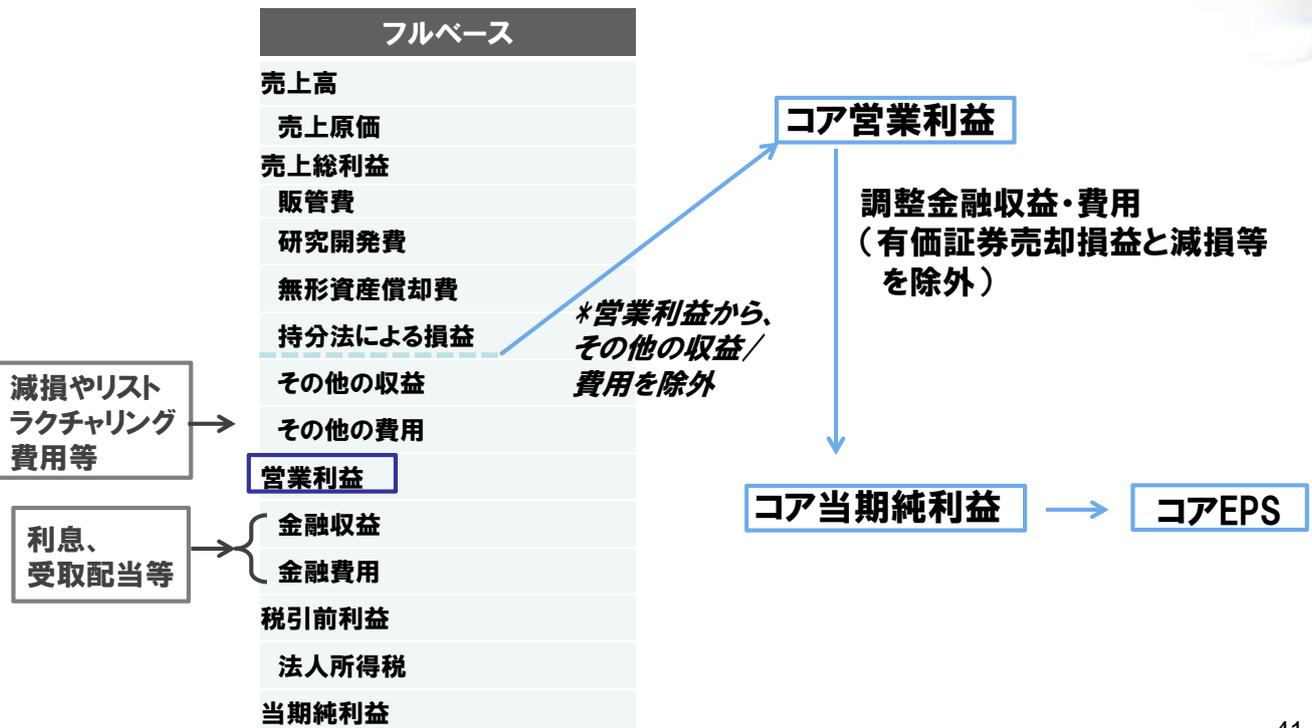
39

参考資料



「コア」利益の定義

会社の経営における経常的な収益性を示す指標として各種コア利益を定義



フルベースからコアベースへの調整表

(億円)

科目	15/3期		
	フルベース	調整	コアベース
売上高	12,473	-	12,473
売上原価	3,332	-	3,332
売上総利益	9,141	-	9,141
販売費及び一般管理費	4,525	-	4,525
研究開発費	2,066	-	2,066
無形資産償却費	387	-	387
持分法による損益	2	-	2
その他の収益 *1	125	-125	-
その他の費用 *1	433	-433	-
営業利益	1,857	308	2,165
金融収益 *2	71	-51	19
金融費用 *2	31	-27	4
税引前利益	1,897	284	2,181
法人所得税	538	110	648
当期純利益	1,359	174	1,532

*1:コアベースの実績からは「その他の収益」及び「その他の費用」は除外されています。

「その他の収益」及び「その他の費用」には、有形固定資産の除売却に伴う損益、その他の無形資産の減損損失、リストラクチャリング費用、訴訟関係費用のほか、為替差損益などが含まれています。

*2:「金融収益」と「金融費用」の内、売却可能金融資産の売却に伴う損益や減損損失は、コアベースの実績からは除外されています。